



ニホンジカの食害で 森林(生態系)が壊れる！



▲ シカの樹皮食害を受けた林（南アルプス）



▲ シカの食害でササが消失した林（伊豆）

シカが増え過ぎた森林では、シカの口が届く高さにある植物が食べ尽くされ、その影響は林業はもとより、木や草の葉、果実や種子などを食べて生活している昆虫や鳥、これらの小動物を食べる動物など森林で生活する動植物とそれらを取り囲む環境全体（森林生態系）に及びます。

落ち葉とそれを食べる土壤動物・土壤微生物によって維持されてきた森林のスポンジ機能も壊れて、洪水や渇水、土砂災害の危険性が高まります。

森林・林業研究センターでは、食害が深刻化するシカの生息実態について調査をしています。



▲ シカの口が届く高さの葉が全て食べられてしまった様子

裏面には、
詳しい
試験研究
結果が
あります。





▲ ニホンジカ (ヌ)

ニホンジカの特徴

- 草食性。なんでも食べる。たくさん(1日1頭で約3kg)食べる。 → **環境へ与える影響が大きい動物**
- 若い時期(1.5歳)から妊娠可能。妊娠率も高い。

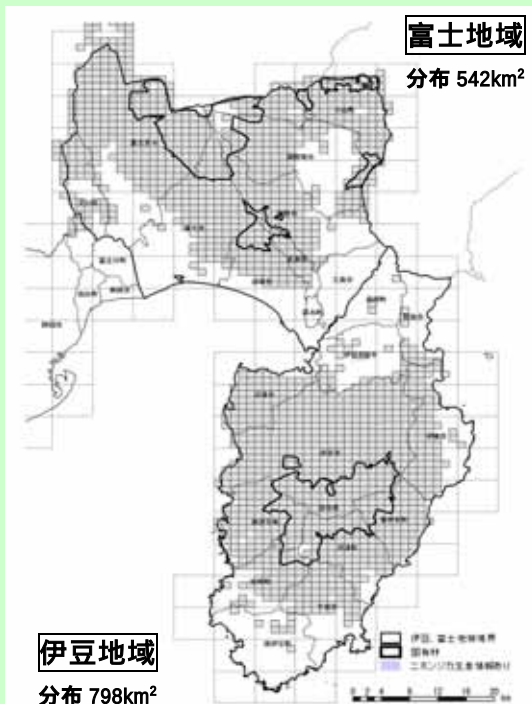
伊豆地域で捕獲されたメスジカの妊娠状況 (2007年)

区分	捕獲数(頭)	非妊娠(頭)	妊娠(頭)	妊娠率(%)
0.5歳	51	51	0	0
1.5歳	23	7	16	70
2.5歳以上	193	26	167	87

→ **非常に増えやすい動物**



県内(伊豆・富士地域)におけるシカの生息実態



(生息分布) **急激に拡大中!**

25年間で1.6倍に拡大

(生息密度) **著しく高密度な状態!**

伊豆地域 約26頭/km² (2006年度末)

富士地域 約18頭/km² (2006年度末)

参考 自然植生にあまり目立った被害がでない密度 3~5頭/km²以下〔環境省〕

シカが急増した背景

1947~2007年(60年間)

メスジカ繁殖 → 増加

十分な餌 = 高い妊娠率

温暖化による豪雪・寒冷による死亡数の減少

オオカミ絶滅による捕食者の不在

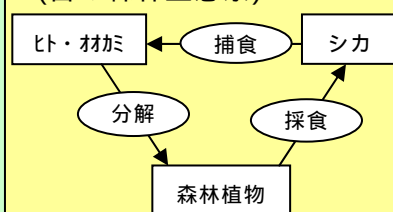
ハンターの減少

出生数

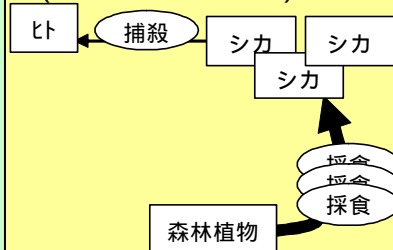
死亡数

生息頭数急増

森林生態系が破壊するまで
(昔の森林生態系)



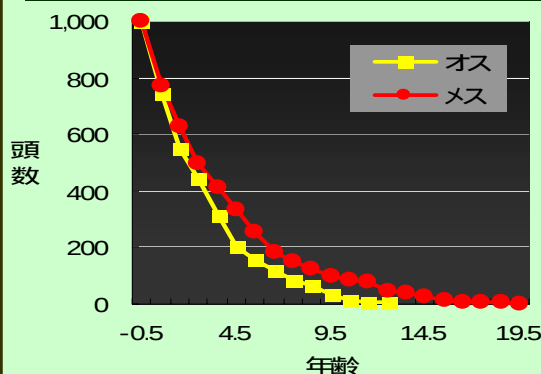
(現在の森林生態系)



植物を食べ尽くす → シカは他へ移動

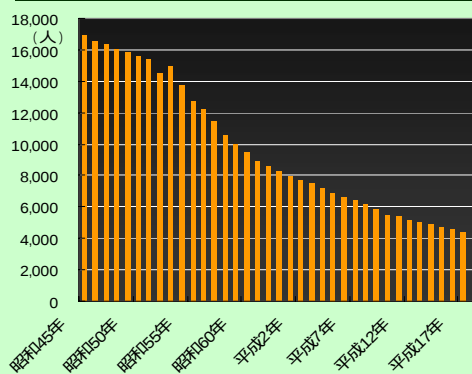


(性構成) **メスが早く増えやすい!**



伊豆地域ニホンジカ(2007年)の性・年齢構成

(ハンター) **40年前の4分の1に激減!**



県内猟友会会員数の推移

食害で森林の荒廃がさらに拡大、深刻化する恐れあり

森林を守るためには、高密度になり過ぎたシカを減らす必要があります。低密度になるまでは、柵の設置などによる応急的な保護対策が必要です。

発行日: 平成21年3月1日

編集: 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター

発行: 静岡県森林・林業研究センター振興協議会

〒420-8601 静岡市葵区迫手町9-6 (静岡県森林組合連合会内)

発行元は解散しました

TEL (054)253-0195

FAX (054)253-2328